

同志社の新しい形

— その歴史的経緯とこれから —

連続シンポジウム「同志社 150 年の歴史から展望する未来への挑戦」の第 6 回目として、「二校地問題と大学の大衆化」（1981～2003）と「新設学部を展開」（2004～現在）に焦点を当てます。

- 日時：2025 年 **6** 月 **13** 日（金）17:00～19:00
- 場所：同志社大学 今出川キャンパス 同志社礼拝堂
& Zoom ウェビナー
- 講演：**沖田行司**（びわこ学院大学学長、同志社大学名誉教授）
神田朋美（同志社女子大学嘱託講師）
- 司会：**小原克博**
（同志社大学 学長、良心学研究センター長、神学部教授）
- コメンテーター：
飛龍志津子（同志社大学 生命医科学部教授）
朝田邦裕（同志社大学 広報部長）



■ 問い合わせ 同志社大学 良心学研究センター **CONSCIENCE**

E-mail : rc-csc@mail.doshisha.ac.jp <http://ryoshin.doshisha.ac.jp>

良心を世界に—良心を覚醒させる知の連携と知の実践

講師略歴

沖田 行司（おきた・ゆくじ）

1948 年京都府生まれ。びわこ学院大学学長 同志社大学 名誉教授。専門：日本思想史・日本教育文化史。博士（文化史学）論博。

1979 年 3 月、同志社大学大学院文学研究科文化史学専攻博士後期課程満期退学。1979 年 4 月、同志社大学文学部助手、専任講師、助教授を経て、1990 年 4 月に文学部教授となり、改組転換で 2005 年に社会学部教授。ハワイ大学日本研究所客員研究員（1989～1990）、中国人民大学客座教授（2003～2013）。2019 年 3 月、同志社大学を定年退職。この間、国際センター所長・社会学部長・同志社大学体育会長・同志社大学ラグビー部長を歴任。

単著：『日本国民をつくった教育：寺子屋から GHQ の占領教育政策まで』2017 年、ミネルヴァ書房。『日本人をつくった教育』2000 年、大巧社。『新訂版 日本近代教育の思想史研究』2007 年、学術出版会。『藩校・私塾の思想と教育』2011 年、日本武道館。編著：『教育社会史』（新体系日本史 16）2002 年、山川出版。『人物で見る日本の教育』2012 年、ミネルヴァ書房。共著：『応用倫理学講義 6 教育』2005 年、岩波書店。『近代東アジアの経済倫理とその実践』2009 年、日本経済評論社。『横井小楠：公共する人間』2010 年、東京大学出版。『正義とは』2012 年、岩波書店。『知るとは』2012 年、岩波書店。『横井小楠―道は用に就くも是ならず』2021 年、ミネルヴァ書房。その他共著書・論文多数。

神田 朋美（こうだ・ともみ）

同志社女子大学嘱託講師。同志社大学大学院神学研究科（博士課程後期）単位満了退学。同志社大学大学院総合政策科学研究科（博士前期課程）修了。同志社女子大学学芸学部日本語日本文学科卒業。現在は、同志社大学良心学研究センター研究員、同志社大学人文科学研究科嘱託研究員（社外）、武庫川女子大学非常勤講師、神戸松蔭大学非常勤教員。

研究分野は神学、図書館情報学、デジタルヒューマニティーズ、デジタルアーカイブズなど。特に同志社の思想、歴史、人物を対象に各研究分野の視点や手法を組み合わせた研究を行っている。

「初期同志社における社会科学教育結実の一例：安部磯雄と D.W.ラーネッド」『社会科学』第 53 巻第 4 号、27-45 頁（2024 年）、「日本基督一致教会・日本組合教会合同運動への一考察：新島襄の教派主義を中心に」『キリスト教史学』第 76 集、78-97 頁（2022 年）、同志社大学良心学研究センター編『同志社精神を考えるために』（共著、2023 年）、同志社大学良心学研究センター編『新島襄 365』（共著、2019 年）など。

二校地問題と大学の大衆化 (1981～2003)

沖田行司

1. 同志社大学の校地問題

今出川・新町キャンパス

- 戦後生まれの団塊の世代の大学進学⇒定員の増員
- 1958年 定員増を申請⇒校地面積から申請数の減で認可
- 1959年4月 日本電池新町工場を買収⇒同志社大学新町校舎とし、教室を臨光館と命名。9月に新町校舎体育施設献堂式
- 近鉄が学園建設用地として近鉄学園前の用地を寄付する意向を表明。「大和学園都市調査委員会」を設置（1961年 近鉄の申し出を辞退）

校地面積の問題

- 1968年3月 大学院文学研究科国文学専攻博士課程と社会学専攻修士課程の申請が中心校地不足で大学設置審議会では設置不可となる
- 1973年 工学部の排水問題が起きる⇒工学部安全委員会が発足
工学部の発展を阻害
- 一般教養の体育施設の不足⇒御所のグラウンドなどを使用
- ラグビー部・野球部は岩倉に合宿所

2. 田辺の土地買収と移転計画

- 1965年 8月 校地不足⇒校地拡張委員会
12月 田辺用地専門委員会（0教授の仲立ち）
- 1966年 4月 理事会・評議員会は田辺土地買収計画を決定
- 1970年 教職員住宅地の造成
- 1971年 旧制第二寮（新島館）の移築

田辺と同志社

- **南山義塾**の創設1881（明治14）年
- 「私供儀、我国目今ノ急務ハ盛ニ教育ヲ施シ人民ノ智識ヲ開發スルニ在リト確信仕候…父兄ニ於テハ其子弟ヲ修学為致度精神アリ、子弟ニ於テハ専ラ勉強學習致度志望ヲ有シ」（「南山義塾開業御願」）
- 南山城の民衆の教育要求
- 科目⇒史学・漢文・修身・物理・地理・博物・経済・法律・生理学

南山義塾への新島襄のメッセージ

- 「有志諸君の篤志より此の美挙あり」
- 「学校をして一地位に安着せず、日々月々進歩改良せしむるの策なかるべからず」
- 教師の選択に注意⇒「今の教師多くは人物を養成するを以て其目的とせず、月給の多少により其所を移し月給を貪り、聊か己の淫欲を逞する」
- 「生徒の気質に随い幾分か教する所を異にし、生徒をして智進み徳高からしめ」
- 「**真理より自由の生ずるのみ**」 ⇒自由民権運動に対して

田辺移転計画

- 1976年5月 「教育研究条件整備委員会」が設置
- 1977年2月 田辺校地整備基本計画が策定
- 1979年4月 0助手、同志社に奉職
- 1981年3月 田辺校地整備実施計画が策定
- **全学部第1年次・2年次の田辺での授業を提案**
- **工学部第3年次・4年・工学研究科・理工学研究所の移転は第2段階とする**

工学部の田辺全面移転

- 1990年6月 工学部統合計画
- 1994年4月 **工学部・工学研究科・理工学研究科が全面移転**
- 1997年4月 田辺町⇒京田辺市
- 2004年3月 今出川校地の寒梅館（司法研究科・ビジネス研究科）、新町校地の溪水館（政策学部・社会学部の研究室棟）
- 2009年4月 神学部・社会学部を京田辺校地から今出川に移転

田辺移転反対の論理

- 1976年1月 学生大会「田辺町移転—大同志社構想粉碎」
 - マス・プロ講義反対⇒対話ができる講義
 - 社会総体における大学の役割と意義を明確に
 - 大学から社会変革の方向を発信⇒**大学の存在意義**

二拠点化の弊害

- 同志社の一体感が希薄になるのでは
- 教員の二拠点移動⇒教育・研究を阻害

大学の進学率

• 1960年	男	15%	女	3%
• 1964年	男	25%	女	5%
• 1970年	男	30%	女	8%
• 1976年	男	40%	女	13%
• 1996年	男	43%	女	26%
• 2007年	男	54%	女	40%
• 2017年	男	56%	女	50%
• 2024年	男	62%	女	56%

大学数の変遷

2024 (796校：私学は622校)

	1948	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020	2021	2022
国立	—	70	72	75	93	96	99	86	86	86	86
公立	1	26	33	33	34	39	72	95	94	98	101
私立	11	105	140	274	319	372	478	597	615	619	620
計	12	201	245	382	446	507	649	778	795	803	807

4. 大学の自立性と学問の自由

- 1991年 大学設置基準の大綱化
 - a) 一般教育に関する規定が無くなる
 - **体育と語学が影響を受ける⇒充実した語学教育が後退**
 - 学部の専門科目を中心に初年次教育を再編
 - b) 大学の自主的な教育理念を明示（隠された自由競争の原理）
 - **キリスト教主義は後退⇒良心教育が前面に押し出される**
- 1993年～ 就職の氷河期
 - 経済界の要請に答える教育⇒企業の即戦力となる人材
 - 教育・研究への**市場の原理**の導入

政治主導型の教育改革

- 中央教育審議会⇒文科省の審議機関
- 内閣総理大臣直属の教育諮問機関
- 1984年 臨時教育審議会 • 2000年 教育改革国民会議
- **2006年 教育再生会議** • 2008年 教育再生懇談会
- 2004年 認証評価制度の導入
- 文部科学大臣の認証を受けた評価機関で認証評価を受ける
- それに従って自己点検自己評価を義務付ける
- 大学教育の質保証⇒学力維持のための諸制度の導入
- スポーツ推薦入試の壁

むすび

- 私立大学の役割と使命
- 社会に発信する同志社の理念
- 学問研究の自由と自立
- 大学教育の自律性とは何か

新設学部の開 (2004～現在)

神田 朋美

1. 新設学部の理念 — 2004 年以降の同志社高等教育のラフスケッチ
2. 幻の医学部設置構想 — 同志社精神の取り扱い方法Ⅰ
3. 同志社教育理念の再考 — 同志社精神の取り扱い方法Ⅱ

1. 新設学部の理念 — 2004 年以降の同志社高等教育のラフスケッチ

1948 年および 1949 年、新制大学として新たなスタートをきった同志社大学と同志社女子大学は、2000 年代を迎えるとともに学部学科の数を急速に増やしてきた。これは、18 歳人口が急激な減少傾向を示しはじめたにもかかわらず、大学・短期大学進学率が上昇し続けていたことや、文部科学省が大学・学部設置等に係る認可への抑制方針を緩和したことが背景にある（『学制百五十年史』、580-581 頁）。

新制大学誕生から半世紀をかけて緩やかに学科を増やしてきた同志社大学と同志社女子大学が、その半分以下の期間で学部数を倍増したことの影響はどのようなものであろうか。本報告では、その全貌や詳細を検証したり考察したりするのではなく、次のような語彙の計量分析から見えるおおまかな傾向を把握することによって、これからの同志社の青写真の一枚を、皆さまとともに描きたい。

◆分析対象

- ・ 2025 年 6 月現在、同志社大学は 14 学部 34 学科、同志社女子大学は 6 学部 11 学科を擁している。これら各学部学科が公開している以下の資料 4 点を分析対象とする。
 - ・ b) 以下は 2016 年の「学校教育法施行規則」改正により策定と公表が義務付けられている。
 - ・ 両校全体の以下資料に建学の精神や同志社が伝統的に持つ教育理念が反映していることは前提とし、ここでは、各学部学科の資料に絞って分析をおこなう。これにより、同志社の教育理念がどの程度反映しているか、もしくはあえて反映させていないかなどの傾向が見えるのではないだろうか。
- a) 教育目的
 - b) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」
 - c) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」
 - d) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」

◆抽出（計量）語彙

- ・両校が掲げる教育理念の文言および代替可能な語彙を抽出（計量）する。

同志社大学：「建学の精神」「新島襄」「良心」「キリスト教主義」「愛」「自由主義」
「国際主義」「グローバル」

同志社女子大学：「建学の精神」「新島襄」「良心」「キリスト教主義」「愛」「国際主義」
「グローバル」「リベラル・アーツ」「学際」

◆表１および表２について

- ・表は設置年順。
- ・抽出語彙のうち、該当がまったくないものは各表から削除している。
同志社大学：「愛」
同志社女子大学：「新島襄」「良心」
- ・各学部の公表形態（学科ごとに個別ファイルや個別 URL をもつ）などに合わせ、同じ学部内でも複数に分かれて計量している。
- ・同志社大学理工学部学部長挨拶について、その内容が極めて a)教育目的であることから、個別計量としている。
- ・同志社女子大学現代社会学部について、a)教育目的のみ 2 学科共通で公開されていることから、個別計量としている。
- ・b)～d)の策定・公表が義務付けられた 2016 年までの社会背景は、3 つの方針の文言に大きな影響を与えているものと考えられる。たとえば、2010 年頃から世界では、アルカイダ、イスラム武装勢力、過激派組織、IS などによる暴力的な活動が頻繁に起こっており、日本社会にはあらゆる宗教を一括りに忌避する風潮があったように思われる。

2. 幻の医学部設置構想 ― 同志社精神の取り扱い方法Ⅰ

2012 年 11 月 30 日、学校法人同志社は「医科大学（医学部）設置基本計画検討チーム」の設置を発表した。設置理由として「東日本大震災の被災地を含む地方」や「北海道函館市をはじめおよそ 10 の自治体から「連携して医学部を開設したい」といった打診や問い合わせ」があることを挙げ、検討課題として「(1)連携する地方自治体の特定(2)病院の管理・運営形態と施設や設備の整備計画(3)財政負担」を挙げた（『日本経済新聞』、2012 年）。発表の場ではさらに、検討チーム設置理由のひとつとして「同志社は医学を含んだ総合大学にするというのが建学以来からの悲願」であることが示された。これについて当時の京都府医師会会長は、「明治のころの建学の思いを現代の医療状況、医師、看護師の需給の将来推計をも顧みず果たそうとすることは、良識の府である大学の見識にも関わる大きな課題だ」と批判している（『京都保険医新聞』）。設置発表から 1 年半後の 2014 年 4 月 21 日、同志社は医

科大学（医学部）開設申請を一旦断念することともに、将来的な設置へ向けた検討は継続していくことを発表した。

建学の精神や教育理念、伝統は、どのようにして受け継ぎ、今日、今現在の社会に生かすことが出来るのか。たとえば、同志社にとって医学教育がなぜ悲願であるかの本質を理解した上で、同志社だからこそ持ち得る新しい価値や社会貢献のかたちを発信できるかが問われているのではないだろうか。

◆同志社女子大学薬学部【教育目標】

本学は建学の精神としてキリスト教による人間への愛を教育の基本とするリベラル・アーツ教育を掲げて出発し、高度な専門知識を磨くとともに、倫理観、使命感を持ち、幅広く精深な教養を有する豊かな人間性をもった人材を輩出してきました。

その基盤の上に立ち、本学薬学部は医療人として、また創薬に関わる研究者として社会で活躍する薬剤師、広い領域にわたる医薬品に関する高度な専門知識を有するのみならず、病める人への思いやりやその心理に対する深い洞察力を持つ薬剤師の養成を目指します。総合大学である本学はチーム医療の一員である管理栄養士の養成課程を備えているばかりでなく、宗教・人文科学・芸術系の学問に接して人間性を養うとともに、社会科学系の学部の学問、特に心理学系や社会福祉系の学問にも接することで、単科大学では難しい学際的な幅広い見識を薬学の専門知識に加味することができます。

3. 同志社教育理念の再考 ― 同志社精神の取り扱い方法Ⅱ

現在、国内の高等教育機関の約8割は私立が占めている。これについて文部科学省は、私立の高等教育機関は量的だけでなく「多様化・高度化する社会のニーズに応えるべく、それぞれの独自の建学の精神に基づいて、個性豊かで多様な教育研究を積極的に展開」することにより、質的にも重要な機関であると評している。しかし、2004年、2014年、2019年と続いた「私立学校法」の改正を見る限り、税制上の支援措置や補助金などと引き換えに、本当の意味での自立や独自性、多様性の実態はとても窮屈なものとなっているのではないだろうか。（『学制百五十年史』、644-646頁）。

同志社には、国家体制や日本社会に迎合せざるを得なかった歴史がある。この苦難の時期、第10代（1935年2月-1937年12月）と第12代（1947年4月-1950年6月）の二度にわたり同志社総長を務め、第二次世界大戦期を含む離職期間のほとんどをアメリカで過ごした（1939年1月-1946年10月）湯浅八郎の教育理想はまったくぶれることがなかった。また、第12代総長就任式の際、第11代総長の牧野虎次は1937年当時をふり返り、「出来るだけ長くアメリカに御逗留願ひ、時勢の變化を御待ち被下ようにと心より御願ひしていた」と述べていることは非常に重要な示唆を含んでいる（牧野、8頁）。当時の同志社と学生を守るための術として、揺るぎない信念を貫く精神力だけでなく、時を待ち人脈を持つ

優れた政治力を駆使し、ひとりひとりでは同志社を守り切ることは出来なかった局面を、それぞれに必要な才をもつ人物が交互に舵をとることで困難を乗り越えている。

大学が真の自治自立を守るということは、戦後 80 年を迎えた 2025 年においても非常に難しい。これは皮肉にも、文部科学省が「自律性が確保されている」(『学制百五十年史』、597 頁)と信じてきたアメリカの高等教育機関の問題により浮彫りとなった。同志社を同志社たらしめる精神の本質を見つめ、柔軟さを持ちつつも安易に迎合へと走らない強さを兼ね備えるために、150 周年を迎える今こそ、いまいちど、これまでの道程、今立っている足元、進むべき地平を、恥じることなく忖度することなく考えるべきなのではないだろうか。

表 1
同志社大学

設置年	学部・学科名称	建学の精神	新島襄	良心	キリスト教主義	自由主義	国際主義	グローバル	計
1948	神学部	4	1	1	6	1	2	4	19
1948	文学部	5			1	1	3	8	18
1948	法学部	1					1	3	5
1948	法学部	1					2		3
1948	政治学科	2		5			15	2	24
1949	経済学部	2		4	1	1	1	4	13
1949	商学部	1	3	2					6
1949	理工学部 学部長挨拶	1					4	1	6
1949	電気工学科	3		4			3	1	11
1949	理工学部 機械システム工学科	9			7	7	9	1	33
1963	機能分子・生命化学科	1					4		5
1963	電子工学科	3		4			4	1	12
1963	理工学部 機械理工学科	2		1	3	3	4	1	14
1994	理工学部 化学システム創成工学科	1						2	3
2004	理工学部 インテリジェント情報工学科	1					2	2	5
2004	理工学部 情報システムデザイン学科	1						1	2
2004	理工学部 環境システム学科	1						13	15
2004	政策学部	5			5	5	8	9	32
2005	社会学部	3			1				4
2008	理工学部 文化情報学部	3					11		14
2008	数理システム学科	2					1	3	6
2008	生命医科学部	2					1	2	5
2008	医工学科	4					5	1	14
2008	生命医科学部 医情報学科	1						1	2
2009	生命医科学部 医生命システム学科	2		3	4		3		12
2011	グローバル・コミュニケーション学部	1					3	19	24
2013	グローバル地域文化学部	64	4	28	30	23	93	85	327

表 2

同志社女子大学

設置年	学部名称	学科名称	建学の精神	キリスト教主義	愛	国際主義	グローバル	リベラル・アーツ	学際	計
1949	学芸学部	音楽学科						1	1	2
1949	表象文化学部	英語英文学科								0
1949	生活科学部	食物栄養科学科								0
1967	生活科学部	人間生活学科							1	1
1989	表象文化学部	日本語日本文学科					1			1
2000	現代社会学部							1		1
2000	現代社会学部	社会システム学科							10	10
2002	学芸学部	メディア創造学科								0
2004	現代社会学部	現代こども学科		1			6		1	8
2005	薬学部	医療薬学科	4	5	1	2		3	1	16
2007	学芸学部	国際教養学科					18	1		19
2015	看護学部	看護学科					2		1	3
	計		4	6	1	2	27	6	15	61

同志社大学教育目標

同志社大学では、良心を手腕に知識、能力を運用し、社会に貢献する人物の育成をめざしています。

「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の3つの教育理念に基づき、次の5つの教育目標を掲げています。

高い倫理観と豊かな人間性の育成

同志社大学は、高い倫理観と幅広い教養をそなえた、品格ある人物を育成する。

自治自立の精神と行動力の育成

同志社大学は、批判的・科学的思考力をもって、自ら問題を発見、解決できる自立した人物を育成する。

生涯を通じて社会に貢献する精神と行動力の育成

同志社大学は、生涯を通じて真理を探究する精神をそなえ、積極的に市民社会に貢献できる人物を育成する。

国際社会に対応できる語学力と行動力の育成

同志社大学は、優れた外国語運用能力をもって、国際社会で広く活躍できる人物を育成する。

寛容な精神の育成

同志社大学は、多様な価値観を受容し、世界の平和に貢献できる人物を育成する。

[同志社大学教育目標と学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針](#) | [同志社大学について](#) | [同志社大学](#)

同志社大学アドミッション・ポリシー

同志社大学は、創立者新島襄の建学の精神に基づき、「深く学問・技芸を探究するとともに、自治自立の精神を涵養し、国際感覚豊かな人物を育成する」ことを目的に、キリスト教主義を基本として人格を陶冶する教育を行っています。この教育理念を基本に置きながら、同志社大学では、140年を越える長きにわたって、社会的視野と倜儻不羈（てきとうふき・『才気がすぐれ、独立心が旺盛で、常軌では律しがたいこと』）の精神を兼ね備え、良心を手腕に運用しながら社会の発展に貢献できる人物を育成してきており、現在もその責務を果たすべく努力を積み重ねてきています。

同志社大学の学生受入に対する基本理念（アドミッション・ポリシー）は、上述の教育理念に基づいており、1) 専門的・実学的能力を高める上で土台となる、幅広い教養と論理思考能力を育成するために必要な基礎学力を有し、2) 知識の量だけでなく、社会的視野を持ち、大学での学習に対する意欲と熱意があり、3) 多様な背景を持つ者と協働して学ぶ寛容の精神と主体性を持ち合わせ、4) 優れた感性と特性を持った学生を受け入れることを目指し、次のような多彩な選抜制度を用意しています。

[同志社大学アドミッション・ポリシー](#) | [学部入試](#) | [同志社大学](#)

同志社女子大学教育理念・目標

同志社女子大学は、新島襄の先駆的な女子教育への情熱に基づく女子塾を起源とし、創立以来、良心教育を柱とするキリスト教の精神に基づく人格教育、リベラル・アーツ教育、国際主義教育を核にすえ、その実現に向けた教育研究活動を実践している。すなわち、「良心を手腕に運用」して「キリスト教主義に基づき、世界的視野で主体的に考え行動」し、「国家から個人に至るまで、国際社会を構成する一員であることを自覚して、文化、経済、外交面にわたる国際交流を推進しながら国際社会に貢献し、その結果として国際社会における地位を高めること」のできる女性の育成につとめている。

この建学の精神および基本理念に基づき、時代や社会の要請に応じた教育を行い、いずれの学部学科においても、専門分野に関わる識見と幅広い教養とを身に付けさせ、多様な進路に柔軟に対応できるバランスのとれた女性を社会に送り出すこととしている。

同志社女子大学アドミッション・ポリシー

本学は、「キリスト教主義」「国際主義」「リベラル・アーツ」を教育の理念とし、学生一人ひとりが持っている才能を生かして、責任感を持って社会に貢献できる女性を育てることを目指している。

入学者受入れにあたっては、それぞれの学部学科における教育理念および教育目標に基づく専門的知識と理論を修得し、様々な分野で社会において貢献・活躍したいと考える多様な優れた資質を有し、学びへの意欲に溢れる女性を求めるとともに、個性豊かな学生が互いを尊重し合い、高め合う教育環境を実現するために観点の異なる複数の入学者選抜を実施している。

入学者選抜において、高等学校における教科学習の総合的な達成度を評価するため、学部学科ごとの入学試験教科・科目の設定や、学業以外の分野における秀でた個性（活動歴）、異文化体験、社会人としての経験等を評価する複数の選抜方法の設定など、本学の建学の精神に深い理解を示し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を、多様な複数の選考制度を通して広く求めている。

[教育方針 :: 同志社女子大学](#)

参考文献

『京都保険医新聞』第 2846 号、16-17 頁、2013 年。

『日本経済新聞』2012 年 11 月 30 日、[同志社が医大新設を検討 79 年以来、認可は不透明 - 日本経済新聞](#)（2025 年 6 月 5 日閲覧）。

『日本経済新聞』2014 年 4 月 21 日、[同志社、医科大開設を断念 - 日本経済新聞](#)（2025 年 6 月 5 日閲覧）。

牧野虎次「招聘之辞就任之祈禱」『第十二代同志社総長就任式記念集』同志社、1947 年。

文部科学省編『学制百五十年史』ぎょうせい、2022 年。

湯浅八郎「就任之辞」『同志社第十代総長就任式々辞』同志社、1935 年。

湯浅八郎「就任之辞」『第十二代同志社総長就任式記念集』同志社、1947 年。